

今年一年を振り返ると、時間とはあつという間に過ぎるものだと実感する。今までとはがらつと環境が変わり、新しいことの連続に戸惑いながら毎日を過ごした。勉強と部活動の両立は想像した以上に困難を極めた。私の場合、前者が大きく足を引っ張っていたのは言うまでもなく、後期には補習で部活動に来る方が少ない所謂レアキャラになりつつあったことも。部活動に関しては、優しい先輩方と愉快的仲間達に囲まれ楽しく過ごしていたが、高校から直(治)らない射癖と早気に苦しめられ、鳴かず飛ばずな状況が続いた。大会では思うようにパフォーマンスを発揮できずじまだった。

そんな中、いつも私の心の支えになっていたのは音楽だ。いつも通り部活が終わり帰宅すると、机の上のターンテーブルの再生ボタンを押す。ヘッドフォンから鳴り響く175BPMのブレイクビーツが私の体を揺らす。疲れはどこかへ吹っ飛んで行き、安らぎを与えてくれる。しかし最近では、中学からJPOPなどは一切聴いて来なかった私が、クラブミュージック以外にも没頭しているものがある。

会場は雄雄しい熱気に包まれている。イントロが始まると、所々から聞こえる「ウリヤ」というダミ声に続いて「オイ」と叫びながら、紫色に光るペンライトを頭上に振り上げる。もうお分かりであろうが、私はアイドルにハマってしまったのである。きっかけは友人宅で見た「私立恵比寿中学」というアイドルグループのライブのDVDであった。歌もダンスも不揃いであるのに、その未完成さになんとも言えぬ魅力を感じ、気づくと私はたびたび私立恵比寿中学のライブに足を運ぶようになっていた。5月22日の春ツアー札幌公演を皮切りに、6月5日の仙台公演、8月20日の富士急ハイランドと、ライブに行く回数を重ねていった。そして最も記憶に新しいのは、12月23日のライブである。

前日22日に引き続き、私立恵比寿中学(エビ中)のライブが代々木第一体育館で行われた。私は、仙台公演から共に登校している4人の親しいファミリー(エビ中のファン)と共に「登校」した。開演が近付くと、会場前には様々な人が集まっていた。集団で円になって訳の分からない呪文を唱える中高生、他のアイドルのライブの宣伝の為に自作のチラシを配布している中年男性、会場では一切することは無いであろうオタ芸を打つ青年、エビ中のライブ衣装を模した服を着た女性のファミリーと、それとニヤニヤしながら話している若者、等々。そんな中、私はとにかくライブで自分のパフォーマンスをいかに最大限に発揮するかを考えていた。ライブ中に消費したエネルギーを効率よく摂取するためにプリンなどを買っておくといい、という話を聞いたので、近くのデリーヤマザキでゼリー飲料を購入した。

小腹を満たすために先ほど買ったゼリー飲料を飲み終わった頃、開場が始まり、10000を超える人波に飲まれながら建物の中へ入っていく。私の席はアリーナの中央にあるサブステージに近い所だった。会場を見渡すと、スタンド席中ほどに関係者席があった。開演近くなると、おそらく芸能人であろう人たちがそこに集まってくる。その中には、エビ中に楽曲「サドンデス」を提供した岡崎体育や、バラエティ番組でエビ中と共演している流れ星のちゅうえいなどがいた。また、エビ中の妹分である桜エビ~ずもいたので、メンバーの茜空に手を振ると、少し恥ずかしそうに手を振り返してくれた。満足して少し周りを見渡すと、同じようにして頬をほころばしているオッサンが何人も居た。今の私は彼らと何ら変わらないことを悟り、軽い絶望を味わう。この間、隣席の友人はずっと静かに目を閉じて、これから始まるライブに向けて精神を集中させていた。

照明が落とされ、ようやくステージが始まる。ステージ中央の大きなスクリーンにムービーが映し出される。クリスマスクルーズの添乗員を演じるエビ中が、巡航中の船ごと大きな魚に食べられてしまい海底へと沈んでいってしまう。映像が終わると、セットの魚の口の中からメンバーが出てきて、エビ中唯一のクリスマスソング「Thanks! Merry Christmas K」が始まる。王道クリスマスソングから疾走感のあるアッパーな曲へ様変わりするキラチューンであり、これから始まる「クリスマス大学芸会」を期待させてくれる一曲である。が、実際にクリスマスを感じさせてくれる部分はこのライブでは1割にも満たない。しかしそんなことはどうでもいい。クリスマスに何一つ色めいた予定の無い私からすればこれが私のクリスマスなのだ。

気が付くとライブも後半である。これからさらに盛り上がっていかうかという所で、「PLAYBACK」のイントロが流れる。私は今までのハイテンションとは一変し、ペンライトの電源を切り、黙ってステージを眺める。それもそのはずで、これは私が大好きな曲であり、待ちに待った初めての生でのPLAYBACKなのだ。歌詞を脳味噌の中で噛み砕くと、目の前に広がる無数のペンライトの光が滲んでいった。そこから、「全力☆ランナー」、「まっすぐ」と、怒涛の泣かせ曲が連続していく。まっすぐの2番のサビが終わり真山りかが熱唱するパートに入る瞬間、先ほどまで無気力に下がっていた両手は、気づけばペンライトを紫色に光らせそれを天高く突き上げていた。もう顔は汗と涙の区別がつかないほどに濡れていた。

そこからは打って変わり、エンディングトークまでハイテンションな曲の4連続だった。「MUSIC VIDEO」で有名な岡崎体育が楽曲提供した新曲「サドンデス」は、曲中にメンバーがダンスサドンデスを行い、この曲のヴィーナスを決めるという内容の曲である。ダンスサドンデスの勝者と徐々に脱落していくメンバーの順

番はライブのたびに毎回変わるようになっており、本番になるまでどうなるかが予測できないのも楽しさの1つだ。ダンスサドンデスパートに入るとファミリー達が声を上げて踊り、推しメンとともに倒れていく姿は滑稽だった。転調し、最高の盛り上がりを見せる大サビの歌詞からの彼女達の強烈なメッセージに心が揺さぶられた。続く「MISSION SURVIVOR」は完全にお祭り騒ぎのような曲である。全員でタオルを振り回しながら、イントロで、先程中高生が言っていた訳の分からない呪文を唱えると、脳内からアドレナリンが出て来てとても気持ちが良い。さらに続く「ちちんぷい」「春休みモラトリウム中学生」もこれまたハイテンションでアツいナンバーだ。曲間も無く立て続けにやり続けたので、流石にエビ中の表情にも疲れが見えた。まさに全力エンターテインメントを魅せ付けられたのだった。客席のおっさん達は死んでいた。

メのトークをして、メンバーが一度退場する。椅子に座って休憩するファミリー達が居る中、私と友人はここで座らない。他にも何人か座らない者達が居るが、何故立ち続けるのか。無論それは私達に「アンコール」という使命が課せられているからだ。刹那、友人の全力でやったねえアンコールが静寂を切り裂く。それに続けて私もがなる。こうしていると、必死な私達を冷ややかな目で見る人たちが必ず居る。私達は応えてほしいからアンコールをしているのに、すました顔で座っていて、再びステージが始まると素知らぬ顔で立ち上がってライブを観るような連中の心理が私には全く理解できない。そのくらいの気持ちならば是非帰ってくれ、と思いながら約30回連続で叫び続けていると、流石に酸素の供給が追いつかなくなってくる。兎に角この声を絶やさず、ステージ裏に届けさせ続けなくてはならない。そこからは友人と交互にアンコール、と叫び続ける。息の合った二人はまるで金閣と銀閣のようだった、とライブが終わった後に他のファミリーから言われた。ペンライトを掲げる腕は乳酸が溜まり、体内の酸素は薄れ、横隔膜は痙攣し、腹から出す声もか細くなっていく。もう何分やっているのかわからなくなってくるが、止める事は無い。もう一度だけこのステージで輝く姿を見せて欲しい、その想いだけが体を動かしていた。

アンコール開始から約5分後、突然ステージが明るくなる。待ちに待ったアンコールの始まりだ。流れるovertureに合わせてメンバーが登場するたび、会場のボルテージは瞬間に上昇していった。アンコール1曲目に期待が高まる中、真山が静かにマイクを構えた。その瞬間、私は次の曲が何であるかを理解した。

エビ中には「金八 DANCE MUSIC」という楽曲がある。これはエビ中がMステに出たいということストレートに歌った曲である。そして、エビ中はこの曲の発表後Mステに出演してこの曲を歌い、爪あとを残した。それに対し「こりゃめでてえな」は、エビ中が紅白歌合戦のステージに立てた喜びを歌っている曲である。実際にはまだ紅白に出場した事はないが、この曲に紅白に出たいというエビ中と制作陣の強い意思が籠められているのは言うまでもない。結果、このライブの8日後、エビ中は紅白に出ることはない。紅白に向けて多くの挑戦をしてきたエビ中であるが、擲のように社会に大きな影響を与えられていないのが現状である。ももクロでさえも長い時間のかかったステージであり、エビ中がたどり着くにはこれからさらに成長していく必要があるだろう。この曲が歌われる以上、エビ中の目標は変わらない。そして私達はどんなに時間がかかってもそれを成し遂げることを信じてエビ中を見守り、応援し、支え続けるのだ。「こりゃめでてえな」の最初の真山のパートで、私はその場に泣き崩れた。

気が付くと大学芸会もラスト一曲である。今年最後のライブを締めくくる曲は勿論「永遠に中学生」だ。この曲はライブ終盤を彩る曲として、エビ中がインディーズの時から歌い続けている曲である。曲が始まると、いよいよライブが終わってしまうことを実感し、悲しみがこみ上げてくる。ファミリー全員で肩を組み、共に過ごした時間を噛み締めた。曲の最後にチャイムが鳴り響き、約3時間の大学芸会は大団円を迎えた。感動的なトークの後、さっさと帰ろうと言わんばかりに早足で退場していくメンバーに心からの「ありがとう」を送った。

ライブが終わると、突きつけてくる現実に絶望しそうになる。落ちていく単位、増えない会の秒数、減っていくお金、減らない体重等々。しかし、私はそれを乗り越え、胸を張ってエビ中を応援できるように成長しなくてはならない。そしてそのモチベーションを保つため、私はまた登校することになるのだろう。

2017年6月18日、札幌のわくわくホリデーホール a.k.a 札幌市民ホールにて私立恵比寿中学の春ツアー 2017の北海道公演が行われる。エビ中に少しでも興味のある人は、是非足を運ぶべきである。また、既に好評発売中のエビ中のベストアルバム「中卒」、「中辛」も共にチェックすることを勧める。